

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
家計 動向 関連	良く なっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・客数、売上ともに前年に比べて2ケタの伸びで推移する日もあり、一昨年並みの業績をあげている。		
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数とあわせて客単価も良くなってきた。ゴールデンウィーク明けに予約が集中してきた。		
変わらない	やや良く なっている	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・一品単価、購買客単価、購買率はほぼ前年並みに落ち着いている。部門別には食料品が好調、婦人衣料品、身の回り品が不調になっている。		
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・相変わらず購買単価は低い、来客数は増えてきている。		
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・イラク戦争やSARS問題で、海外旅行が国内にシフトしているせいか、今月はやや販売量が好調である。		
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・目標予算には届かないが、前年比120%で推移している。特に婚礼が伸びている。		
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・各設計事務所とも企画、計画の持込みが増えている。		
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・ローン減税に伴う動きが多少出ている。		
		変わらない	変わらない	商店街（代表者）	それ以外	・低額品と高額品の売行きがよく、二極化している。
				商店街（代表者）	お客様の様子	・複合商業施設がオープンし、我が商店街にもぎわいを増したが、あまり売上につながっていない。
				一般小売店〔食料雑貨〕（店員）	お客様の様子	・飲食店はゴールデンウィークの売上に期待して休み前に普段より注文を多く出したが、結局あてがはずれ、材料を抱え込んでいる。そのため5月の連休明け以降、極端に注文が減った。
				百貨店（売場主任）	競争相手の様子	・複合商業施設オープンによる相乗効果が続き、来客数は1割増、特にゴールデンウィーク期間中は2割増で推移、売上高についても4%増で推移した。
				スーパー（店長）	販売量の動き	・値引きした商品（特に衣料品）の購買の量を見ると、余計な枚数を買わないという傾向が目立った。
				衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・晴天が続いたため、国内での旅行付きお買物ツアーは好評で、高額品が売れた。プレミアム商品の需要は根強いものがある。
家電量販店（経営者）	販売量の動き			・売上の軸となる商品の販売が少なく、すそもの（低額商品）しか動かない状況である。		
家電量販店（店員）	お客様の様子			・消費者はボーナスが出ないかもしれないという不安をかかえており、購買をためらう傾向にある。		
乗用車販売店（経営者）	単価の動き			・来客数の減少と客単価が下がっている。		
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き			・販売量、来店数など昨年とあまり変わらない。単価下落が懸念される。		
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子			・景気が悪いなりに、利用が安定してきている。		
高級レストラン（専務）	来客数の動き			・飲食業の不調に加えてSARS問題等、悪いニュースばかりである。		
その他飲食〔居酒屋〕（店長）	単価の動き	・最近急激に暑くなったため、客が1次会でピアガーデンを利用するようになった。居酒屋では焼酎をたしなむ程度になったため、料理も多く出ず、売上が減少している。				
タクシー運転手	来客数の動き	・昼間は買物や観光客等で横ばいであるが、夜に飲みに行く客は落ち目である。全体的に見ると悪い。				
タクシー運転手	お客様の様子	・人の動きが昼夜とも少ない。				
通信会社（経営者）	競争相手の様子	・客が無駄な買物をしない。特に流行品への支出が控えられている。				
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは去年よりは若干客が多かったが、それも直前になって客が増えるという状況で、最近の家族は計画性のあるレジャーをしていない。				
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・建売住宅の問合せはあるが、客の予算に合わないため契約に結びつかない。客数は前月と同じである。				

やや悪くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・これまで堅調であった生鮮食品、パン等の日常消費食品の売上が減少している。また客単価も減少傾向にある。	
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・フェア期間中だけに売上が集中する傾向が見られ、平日はやや弱い動きとなっている。その結果トータルでの販売高は下げを止められない状況である。	
	百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・前年同月比3～5%程度の、慢性的な客数の減少が続いている。	
	スーパー（店長）	お客様の様子	・SARSやBSE等で買物が慎重になっている。	
	スーパー（店長）	単価の動き	・5月の最大セールスであるゴールデンウィークの動きが非常に悪かった。イラク戦争、SARSの影響で旅行用品の売上が大幅に落ち込んだほか、母の日関連商品の単価下落が見られた。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの売上の伸びが前年を下回った。客の動きが悪く、客単価も前年を下回っている。	
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・発泡酒の増税等の影響で買い控えが見られる。	
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・今年になって土日、祝日の売上が極端に落ちている。	
	家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・パソコンの新製品発売が遅れ、関連商品も含めて低調である。	
	家電量販店（企画担当）	単価の動き	・来客数は多いが購買に結びつかない。結びついて単価が低い。	
	都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・SARSの影響で東南アジア地区からの予約が激減している。日本人客の客単価も減っている。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・イラク戦争やSARSの影響で国内旅行へのシフトが予想されたが、未だに回復の兆しは見えない。	
	旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・SARSの心理的な不安感から、東南アジア・中国・韓国・台湾への渡航者が軒並み激減している。国内も風評騒ぎで、一部でキャンセルが発生している。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・客待ちの時間が長くなり、1、2時間空車で待機するのが当たり前になった。大きなイベントは開催されているが、利用する客は少ない。	
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・インターネット接続サービスの解約者数がやや増えている。	
	通信会社（業務担当）	販売量の動き	・平日の来客数はかなり少ない。週末は新機種の発売等で一時的に販売数は増加したが、ほとんどが買換え需要で、新規は減少している。	
	競輪場（職員）	単価の動き	・来客数は前回調査と同様だが、客単価が3～5%減少している。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今期に入り、住宅販売棟数が昨年の半分以上となっている。多額で長期の住宅ローンを組むことを控えている傾向がある。		
悪くなっている	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・SARSの影響で海外旅行のキャンセルが多い。国内旅行への振り替えもないため、前年同月比15%減の状況である。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・毎月1回ダイレクトメールを出しているが、ここ何か月か効果がない。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連のリードフレームは、生産量はまだまだ不透明なところがあるが、現在はフル操業を続けている。大手半導体メーカーはスポット的ではあるが、動きが出ている。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新製品関係の部品加工や新しい加工が増えている。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・約2億円のファミリータイプマンションの見積依頼が建設業者から来た。個人の住宅関連の投資が動き出したとみられる。ただ、戸建ての住宅は非常に少ない。
変わらない		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・4、5月と売上が前年対比で2ケタの伸びである。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・農産物の品質の低下に伴い、価格は低下しつつあるものの、急激なものではない。
		家具製造業（従業者）	受注量や販売量の動き	・飲食関係が、特にSARSの問題で出店を取りやめたところもあり、短期的には悪い。

		建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・公共工事の入札制度の改革により、受注状況が以前よりも少ない。その反動で、民間の受注でも競合が激しくなっている。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・SARS問題等の影響が懸念される。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・各得意先とも大きな荷動きの変化がない、在庫は少し増えているが、状況としては変わらない。
		金融業（調査担当）	それ以外	・大企業の業績回復は顕著だが、リストラのあおりを受けた個人はいまだ厳しい。トータルでは変わらない。
		経営コンサルタント	それ以外	・現在の受注はリストラ絡み、合理化、事業縮小の案件が多い。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・リース契約は、医療関係の一部を除き、極端に冷え込んでいる。
	やや悪くなっている	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・食品の偽装表示問題の関係で国内志向で売っているが、やはり財布のひもは固い。
		金属製品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格の手取率に向上がみられない。また厳しい価格提示に対しては追従できず、辞退することもある。
	悪くなっている	繊維工業（営業）	受注量や販売量の動き	・SARSやイラク戦争など、不景気になる材料が多い。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・九州は営業の売上が良く、押し込み、いわゆる月末の大量の発注をしないのが普通だが、先月、今月はそうではなかった。今月中旬は商品をほとんどとらず、営業の成績を伸ばすためだけに問屋に大量に買ってもらい、押し込みという現象が発生している。この状態が出るということは景気が良くない時である。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は微増傾向だが、派遣社員、契約社員等の正社員以外の求人が増加している。求職者は常用希望が多いことから、雇用形態、雇用条件等のミスマッチが拡大している。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・大量の新規求人の大部分が、製造業においては請負契約であり、パート求人のうち販売職に労働者派遣事業所からの求人が目立った。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求職者数の動き	・学卒者の未就職者数が増えている。卒業しても職のない方が職業安定所にあふれている。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・SARSの影響が大きい。
		民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・IT、半導体関連技術者の雇用が増えている。一部だが、技術者不足が深刻化している企業も見受けられる。しかし求職者の動きが乏しく、ニーズに合った紹介が困難である。
	悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の絶対量が減っている。